

日本性科学会 ニュース

第22巻第1号

平成15年(2003年)3月

発行人: 野末 源一 印刷所: 懶 絢 文 社

1. 第32回 日本性科学会研修会

日 時 2003年5月18日(日)

場 所 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂
東京都港区西新橋3-25-8 TEL 03-3433-1111

受講料 会員10,000円 一般15,000円 学生3,000円

プログラム

- 09:30~09:40 開会の挨拶 日本性科学会理事長 野末 源一
09:40~10:20 automotivation 千葉大学名誉教授 武田 敏
10:20~11:00 女性の primary care としての sextherapy 国立千葉病院産婦人科医長 大川 玲子
11:00~11:30 射 精 岡山大学大学院医歯学総合研究科泌尿器病態学講師 永井 敦
11:30~12:00 射精困難 あべメンタルクリニック院長 阿部 輝夫
12:00~13:30 昼休み(尚、13:00~13:30 日本性科学会総会)
13:40~14:30 脳と性差 横浜市立大学大学院医学研究科生体システム情報医科学専攻
神経内分泌学教授 田中(貴邑)富久子
14:30~14:50 コーヒーブレイク
14:50~16:20 カウンセリング演習 埼玉社会保険病院精神神経科部長 塚田 攻
日本赤十字社医療センターカウンセリングサービス臨床心理士 金子 和子
16:20~16:30 閉会の挨拶 日本性科学会副理事長 阿部 輝夫

2. 第23回 日本性科学学会開催予告

第23回日本性科学学会開催を下記のとおり予定しております。皆様奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

会 期 2003年10月19日(日)

場 所 東京都内(未定)

学 会 長 原科 孝雄(埼玉医科大学総合医療センター・形成外科 教授)

メインテーマ “性” その多様なもの

一般演題締切 2003年7月25日(金)18:00

400字以内の講演要旨を下記宛にお送り下さい。

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田辻道1981

埼玉医科大学総合医療センター・形成外科

第23回日本性科学学会 事務局 担当: 高松 亜子

TEL 049-228-3639 FAX 049-228-3651

E-mail: accot@saitama-med.ac.jp

(ご注意) 前回のニュースレターでは、メールアドレスに間違いがありましたのでご注意下さい。

3. 第44回 日本心身医学会総会ならびに学術講演会

日 時 2003年5月8日(木), 5月9日(金)

場 所 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)

学 会 長 石津 宏(琉球大学医学部保健学科精神衛生学教室 教授)

基本テーマ 心身医学の新展開への期待と可能性 ―全人的医療から予防・ヘルスプロモーションへ―

Vol. 22

№
1

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

レズビアン・ゲイ・バイセクシュアルについて

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース 石丸 径一郎

今回の研究会では、性指向についてのマイノリティであるレズビアン・ゲイ・バイセクシュアルについての話題提供をさせていただいた。

用語：homosexual という用語もあるが、近年は学術論文でも lesbian, gay, and bisexual という言い方が好まれる。ただし長いので、LGB ないし GLB と略されることもある。その他英語圏における、homogenderal/heterogenderal, androphilia/gynephilia, sexual orientation/sexual preference, homophobia/heterosexism 等の用語、また日本の LGB コミュニティにおける用語を紹介した。

概念：何ををもって LGB であるとするのかについて、自認/恋愛感情や性的魅力を感じる相手/性的ファンタジーの相手/性的行動の相手など、いくつかのものが考えられる。

歴史：20 世紀後半のアメリカについて見ると、Hooker (1957) が初めて非病理的視点からの研究をし、1969 年の stonewall 事件を機に運動が盛り上がった。アメリカ精神医学会の診断基準である DSM は、1973 年から徐々に同性愛を精神疾患の中から外していき、1987 年の DSM-III-R で完全に消え去ることになった。

他マイノリティとの比較：LGB は一般的に、家族からの受容を得にくいこと、可視性が低いこと、独特の忌避性、宗教との関係などに特徴がある。

LGB に関わる専門家のためのガイドライン：アメリカ心理学会の LGB に関する分科会が、「LGB であるクライアントとの心理療法に関するガイドライン」を作成している (American Psychologist, 55 (12), 1440-1451, 2000)。このガイドラインは、セラピストの知識や考え方について述べた「同(両)性愛に対する態度」、恋愛・友人関係、子育て、家族・原家族について述べた「人間関係と家族」、LGB の中でも民族・世代・心身の状態に関して差異があることについて述べた「多様性について」、専門教育やコミュニティ資源の重要性についてのべた「教育」の 4 領域に渡る 16 項目からなっている。

アイデンティティ発達：「セラピーで性指向を変更することは困難」ということがしばしば強調される一方で、性指向を変更するためのセラピーを提供するグループも存在する。もしも「異性愛者になりたい」という訴えを持つクライアントに会った場合の理解の仕方のひとつとして、同性愛アイデンティティ発達という観点を提案した。何人かの研究者が同性愛アイデンティティの発達段階について提唱している。いずれの発達段階仮説も基本的に同じようなプロセスを想定している。まだ自らの同性愛傾向について気づいていない、ないしは深くは考えていない段階から、自分の存在と同性愛との関係や折り合いについて直面化する段階に入る。そして同性愛を強く否定したり、逆に強くのめり込んだりなど激しく不安定な時期を経て、その後徐々に自我の中に同性愛がバランス良く統合されていくことになる。このようなプロセスを念頭に置いて考えると、「異性愛者になりたい、同性愛を治したい」というような訴えは、すなわち同性愛に対してネガティブな考え方をしているということであり、この発達段階の初期の方に位置していると考えられる。このようなクライアントに関わる者は、今後この訴えが変化していく可能性が十分あることを考慮に入れるべきであろう。最後に、特に学生相談において、具体的にどのようなテーマが現れるかということについて参考になるとと思われる堀田香織氏の論文「男子大学生の同性愛アイデンティティ形成」(学生相談研究, 19 (1), 13-21, 1998) について紹介した。

危機にさらされるリプロダクティブ・ヘルス／ライツ

米国のもう一つの“戦争”

日本家族計画協会 芦野由利子

1994年の国際人口開発会議（通称カイロ会議）で提唱されたリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）は、性科学の分野でもいまやキーワードの一つではないだろうか。この言葉の意味は、性や産む産まないに関して、個人とくに女性の自由意思による決定を尊重すること、また性や妊娠・出産に関わる健康を生涯にわたり権利として保障することである。リプロダクティブ・ヘルス／ライツ登場の背景には、トップダウンの国家人口政策に対する反省があった。カイロ会議では、ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント（女性があらゆる面で力をつけること）も重視された。また、思春期対策の緊急性もうたわれた。リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理念は「カイロ行動計画」に明記され、以来行動計画は各国の政策立案の指針となっている。

ところが昨年10月末、米国がカイロ行動計画を再承認しないと突然表明したのである。それは第5回アジア太平洋人口会議（APPC、バンコク）準備会合でのことだった。再承認しない理由は、リプロダクティブ・ヘルスサービスとリプロダクティブ・ライツという文言が中絶推進を示唆し、若者の性行動を奨励するからということである。中絶はカイロ会議の最大の争点ではあったが、最終的に「中絶は家族計画の手段ではない。……合法的中絶は安全になされるべきである」とする文言が採択され、米国をはじめとする179カ国が行動計画を承認したのである。それだけに、世界の関係者は米国の態度豹変に驚き失望した。中絶の合法化を支持したクリントン大統領と違い、ブッシュ政権はプロ・ライフ（中絶禁止を主張）であり、前記準備会議では、バチカンの関係者を政府代表顧問に迎えている。国内では多額の予算を投じ、「もっとも健康的な選択」として未婚の若者に禁欲教育を奨励している。その一方で、国連人口基金（UNFPA）への拠出金は、中絶を推進する中国を援助しているという理由から打ち切られた。

国際家族計画連盟（IPPF）を含むNGO（非政府組織）は、こうした動きを「米国のもう一つの“戦争”」と捉え、世界各地で反対行動を起こした。日本でも、ジョイセフ（家族計画国際協力財団）や日本家族計画協会、女性と健康ネットワークなど40のNGOが、カイロ行動計画を堅持するよう政府に要望書を提出した。こうした危機的状況の中で、2002年12月11～17日、第5回APPCが国連主催により開催された。参加国は日米を含め40カ国である。日本からは、木村義雄厚生労働副大臣を団長とする代表団が派遣されたが、アドバイザーとしてジョイセフなどNGOの代表も招請された。APPCの様相は、一言でいえば「米国対その他の国」の対立となった。このように、社会や文化、宗教の異なるアジア太平洋諸国が団結することは、極めて異例なことである。それはリプロダクティブ・ヘルス／ライツが広く浸透してきたことの現れであり、米国の単独行動主義に対する異議申し立てでもあったろう。当初懸念されたリプロダクティブ・ヘルス／ライツはこうして再承認されただけでなく、一層推進されるべきとして、「バンコク行動計画」が採択された。ただ米国のみは、この行動計画を全面的に留保した。

ひとまず危機は去った。しかし問題は続いている。ブッシュ政権の姿勢は今後とも変わらないだろう。米国の動きが日本に及ぼす影響も大いに懸念される。中学生を対象にした性教育冊子「ラブ&ボディ BOOK」や、地方自治体の男女共同参画条例に対する反対運動にみられるように、女性や結婚していない若者の性の自己決定権を否定するバックラッシュは、日本でも勢いを増している。リプロダクティブ・ヘルス／ライツは「中絶容認」だからという理由で、条例案から削除されるケースも相次いでいる。現実をみれば、性感染症、HIV／エイズは特に若い年齢層に拡大しており、10代の中絶率（女性人口千対）は過去7年間で倍増している。近年は20代の中絶率も上昇傾向にあり、結婚していない若い女性の中絶が増えていることを物語っている。これらは問題の一端に過ぎないが、果たして禁欲教育だけでこうした問題に対処できるだろうか。禁欲はあくまで選択肢の一つであり、性や避妊については包括的な情報と手段が不可欠だろう。さらに、自分のからだのことに責任をもって自ら決定する力を養い、性の違いにかかわらず相手との対等な関係を尊重できる教育が必要である。リプロダクティブ・ヘルス／ライツは日本でもようやく浸透し始めたところである。ここで、時計の針を逆戻りさせてはならない。

（了）

資格認定委員会報告

認定委員会委員長 阿 部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成15年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示を、6月発行の日本性科学会ニュースで行います。尚、更新該当者氏名（登録順）は、以下のとおりです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は、ご準備をお願い致します。

また、同時に、平成15年度資格認定に関する公示も、6月発行のニュースで行います。

資格更新該当者氏名

セックス・カウンセラー		セックス・セラピスト	
山 崎 高 明	亀 谷 謙	長 田 尚 夫	長 池 博 子
廣 井 正 彦	山 中 京 子	河 野 友 信	西 丈 則
石 津 宏	林 田 昇 平	山 崎 高 明	木 村 泰治郎
長 池 博 子	中 條 泰 行	亀 谷 謙	島 本 雅 典
島 典 子	幾 嶋 栄三郎	大 川 玲 子	石 田 雅 巳
森 島 正 視	伊 藤 弘	村 口 喜 代	針 間 克 己
荒 居 百合子	岡 本 文	石 津 宏	山 中 京 子
佐 藤 ち 江		金 子 和 子	林 田 昇 平
		渡 辺 景 子	森 泰 美
		大 月 一 子	岡 本 文

お知らせ

現在、平成15年版会員名簿作成の準備をすすめております。

現住所・勤務先等に変更のある場合は、ハガキにて事務局までご一報下さい。

郵送先 〒107-0062 港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F 長谷クリニック内 日本性科学会事務局

会費納入のお願い

4月より新しい年度（平成15年4月1日より平成16年3月31日）に入りますので、平成15年度会費15,000円の納入を、よろしくお願い致します。手数料が無料となります、学会の郵便振替用紙を同封致しますので、ご利用下さい。